

平成22年度 研究論文

研 究 主 題

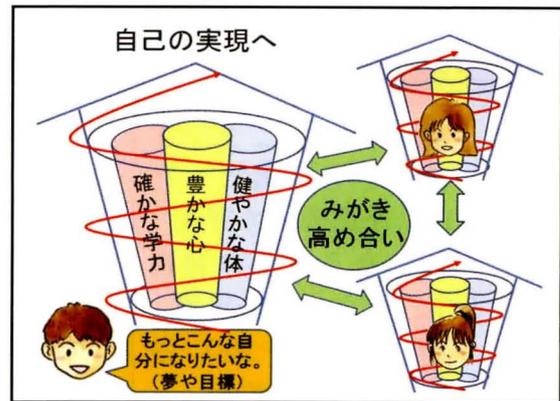
夢や目標をもち、
共にみがき高め合う子どもの育成Ⅱ
～確かな学力，豊かな心，健やかな体を
調和的にはぐくむカリキュラムの創造～

I 研究の目的

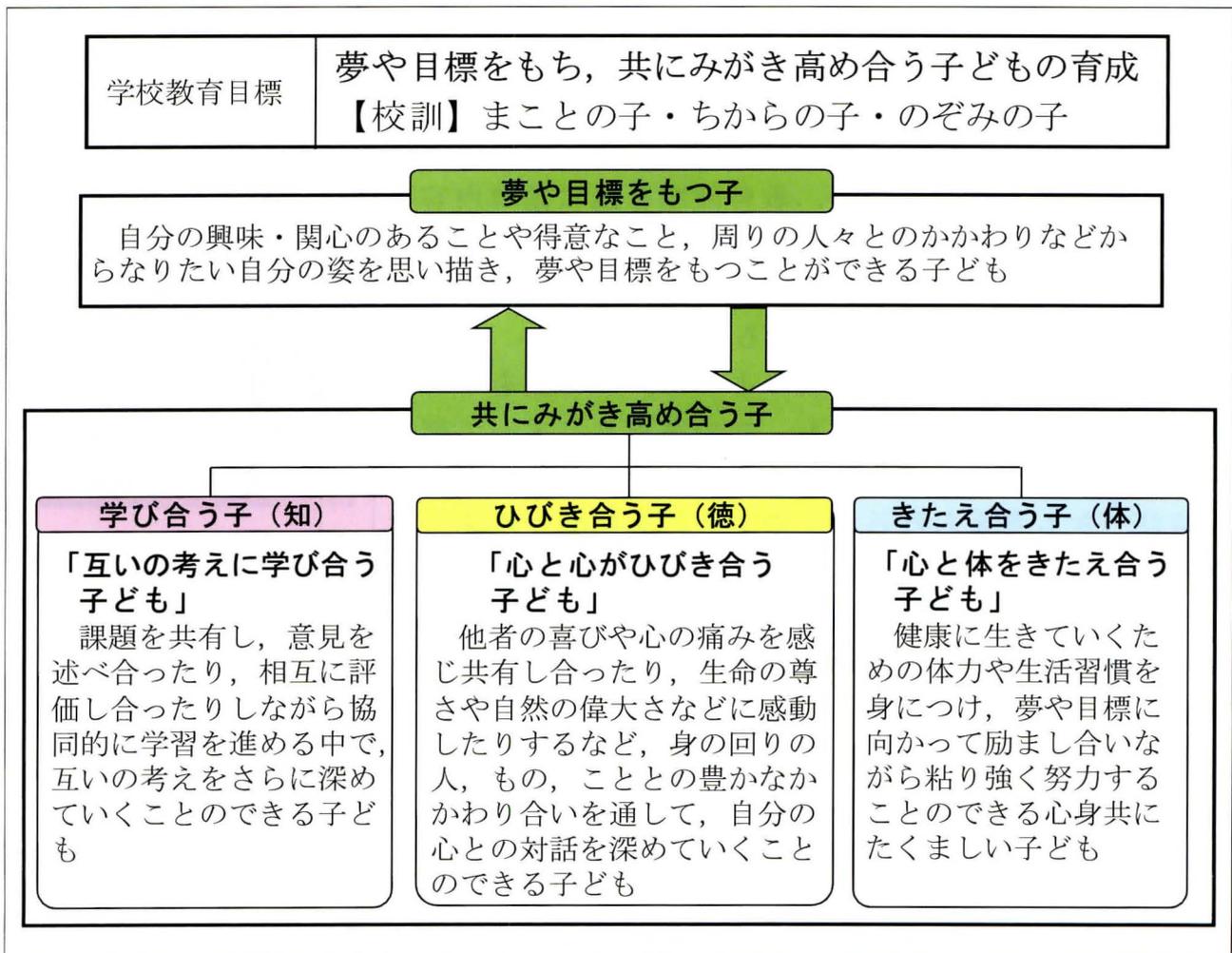
1 研究の背景

戦後初めて教育基本法及び教育三法が改正され、平成20年3月には新しい学習指導要領が示された。そこでは、改めて「生きる力」の育成が重視され、知・徳・体のバランスのとれた子どもの育成が求められている。わたしたちは、新学習指導要領の理念の具体化を図り、次代を担う子どもたちに「生きる力」をはぐくむ学校のあるべき姿を求めて学校づくりの研究をスタートした。

その中でまず、時代の要請や本校の教育理念等を踏まえた上で知・徳・体の三観点から学校評価や道徳性調査、諸学力・体力調査等を実施し、本校の教育課題を明らかにした。次に、わたしたちの基本的な子ども観を再確認し、本校が目指す教育の方向を見出し、図1の目指す子ども像と図2の新たな学校教育目標を設定した。そして、学校教育目標を具現化し、子どもたちに「生きる力」をはぐくむための学校づくりの基本的な考え方をまとめた。



【図1 目指す子ども像】



【図2 学校教育目標と知・徳・体の面から具体化した目指す子ども像】

その一方で課題として、各教科等における目指す子ども像や授業像、さらには新学習指導要領に対応したカリキュラムの考え方を明確にして、具体的に編成を進める必要があることと、また、二学期制の導入についても積極的に検討を進める必要があることが挙げられた。

2 研究の方向

昨年度の研究では、新学習指導要領の理念を踏まえ、わたしたちは、「生きる力」が子どもたちにどのように身に付いているかを、知・徳・体の三観点から分析し、表1のような教育課題として明らかにした。

【表1 本校の主な教育課題】

確かな学力(知)	豊かな心(徳)	健やかな体(体)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 読み取ったことや学んだことを根拠にした論理的な思考力の育成 ・ 伝え合う方法の習得と学び合うよさの実感 ・ 学ぶ喜びや楽しさのより一層の実感 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 相手の立場に立って考え、行動することの価値や喜びの実感 ・ 異質な集団（異年齢集団等）におけるよりよい自己の発揮の仕方の体得 ・ 多様な体験を通じた豊かな感性や粘り強さの涵養 	<ul style="list-style-type: none"> ・ バランスのとれた体力や基礎的な運動技能の育成 ・ 規則正しい生活や望ましい食習慣の定着 ・ 健康・安全への意識の高揚

そこで、本年度は、これらの三観点から分析した教育課題を踏まえ、学校教育目標の具現化を図るために、どのような教育内容をどのような意図で編成していくのかといったカリキュラム創造の基本的な考え方を明らかにする必要があると考えた。その一つは、教育課題を基に指導内容を重点化したり、系統性や関連性を踏まえて指導内容を組織したりするとともに、二学期制の特性を生かした授業時数配当や単元・題材配列などを考慮することである。

さらに、図3の理科の例のように、知の面を中心とした学習を展開しながらも、知の高まりによって徳の面が高まり、そして、保健の学習といった体の面との結びつきも考えられる。このように具体的な授業においては、知・徳・体のある面を中心に育成しようとするが、実際は、その学習や活動の効果が、知・徳・体の全面に波及し、総合的・横断的にとらえた指導が重要になってくる。つまり、教育活動全体として調和のとれたカリキュラムを目指す必要があると考える。



6年理科「人や動物の体の仕組み」
心臓の拍動と脈拍を関係付けて考えることを通して、血液の循環についての見方・考え方を高めていく。そして、循環、呼吸、消化・吸収といった人の体の仕組みの巧みさをとらえることで、生命を尊重する気持ちや態度を高めることができるようにする。

これらのことから、本年度の研究主題と副題を次のように設定し、研究を進めていくこととした。

夢や目標をもち、共にみがき高め合う子どもの育成Ⅱ
～確かな学力、豊かな心、健やかな体を調和的にはぐくむカリキュラムの創造～